

原文

(本文 117 頁 15 行～ 22 行)

ロシアでは、世紀末から工業化のすすむなかで、自由主義の立憲民主党、ナロードニキの流れをくむ社会革命党、マルクス主義のロシア社会民主労働党などがうまれていた。日露戦争中の 1905 年 1 月に、ペテルブルクで皇帝への信頼をゆるがす血の日曜日事件がおき、革命がはじまった。労働者はソヴィエトを組織し、水兵は反乱をおこしたので、国会の開設をはじめとする改革がうながされた。翌年、首相となったストルイピンは、農村共同体の解体、富農の育成をはかったが、彼は国会を無視し、革命派を弾圧して、政治は反動化した。

立憲民主党の結成時期について誤解するおそれのある表現である。

修正文

ロシアでは、世紀末から工業化のすすむなかで、ナロードニキの流れをくむ社会革命党、マルクス主義のロシア社会民主労働党などがうまれていた。日露戦争中の 1905 年 1 月に、ペテルブルクで皇帝への信頼をゆるがす血の日曜日事件がおき、革命がはじまった。労働者はソヴィエトを組織し、水兵は反乱をおこしたので、国会の開設をはじめとする改革がうながされ、自由主義の立憲民主党もうまれた。06 年、首相となったストルイピンは、農村共同体の解体、富農の育成をはかったが、彼は国会を無視し、革命派を弾圧して、政治は反動化した。